

1. 2014年度報告

1. 学部・大学院一貫の質の高いカリキュラム

①新カリキュラムの実施

2年次の初期教育の実施（人間科学部）

②カリキュラムの見直し

2014年度には、1・2年次の初期教育の具体的な内容および実施体制を細かく検討した上で授業を実施し、授業終了後に結果を評価して改善すべき点を洗い出した。引き続き各科目のシラバス、科目間のシークエンス、時間割などについても問題点を検討し、カリキュラムの完成度を上げていく作業を行なった。また、カリキュラムの構築および運用に関わるカリキュラム構想グループの再編を実施した。

③オンデマンドコンテンツの利用方法の検討

学部教育および大学院教育におけるオンデマンドコンテンツの利用方法を検討した結果、基本的には対面の授業実施を条件とするが、予習・復習の促進や授業時間内の教材の一部としてオンデマンドコンテンツを利用できるという方針に基づいて、学部・大学院のルールを策定した。

2. 安定した入試制度

「数学選抜入試」の導入により、指定校推薦入試への依存度がやや低くなったことを受けて、指定校推薦入試の見直しを行なった。また、新しい入試制度の検討を開始した。

3. 戦略的な研究推進

①研究推進委員会

学術院内に設置した研究推進委員会において、引き続き研究推進の方向性について議論した。

②人間総合研究センターの事業の活性化

大型競争的研究資金を獲得するための助走・準備的な企画準備プロジェクト（Aプロ）や、獲得した大型競争的研究資金を支援する大型研究支援プロジェクト（Bプロ）を実施した。

③研究と教育の連携

大学院カリキュラムの中に研究成果への還元を目的としたプロジェクト科目の充実を検討した。

④シンポジウムの開催

人間総合研究センター主催のシンポジウム「人間科学とは何か」を開催した。

4. 学内外との連携の推進

①「人間科学学術院人間科学会」の設立

学部・大学院の「人間科学会」を統合し、「人間科学学術院人間科学会」を設立し、総会を開催した。

②学内外連携委員会（仮称）の設置

学術院の学内外との連携活動を取りまとめ、また学内外との連携の推進の方向性を議論する学内外連携委員会（仮称）の設置を検討した。

5. 人間科学学術院の将来の方向性の検討

将来構想委員会の答申

人間科学学術院（人間科学部（通学制・通信制）、人間科学研究科、人間総合研究センター）の将来の課題や目標について様々な角度から検討を加え、今後の方向性を考えるために設置した将来構想委員会がその結果を教授会に答申した。

2015年度計画

1. 学部・大学院一貫の質の高いカリキュラム

①新カリキュラムの実施

3年次の専門ゼミの実施（人間科学部）

②カリキュラムの見直し

2015年度には、引き続き1・2年次の初期教育の具体的な内容および実施体制を細かく検討した上で授業を実施し、授業終了後に結果を評価して改善すべき点を洗い出す。各科目のシラバス、科目間のシークエンス、時間割などについても問題点を検討し、カリキュラムの完成度を上げていく作業を行なう。また、新カリキュラムが2016年度に完成年度を迎えるため、2017年度以降のカリキュラム見直しのための検討を開始する。

2. 安定した入試制度

2017年度入試から「公募制学校推薦入試（FACT選抜）」を実施することを決定した。

3. 戦略的な研究推進

①研究推進委員会

学術院内に設置した研究推進委員会において、引き続き研究推進の方向性について議論する。

②人間総合研究センターの事業の活性化

引き続き、大型競争的研究資金を獲得するための助走・準備的な企画準備プロジェクト（Aプロ）や、獲得した大型競争的研究資金を支援する大型研究支援プロジェクト（Bプロ）を実施する。

③研究と教育の連携

大学院カリキュラムの中に研究成果への還元を目的としたプロジェクト科目の2016年度からの再設置を検討する。

4. 学内外との連携の推進

①「人間科学学術院人間科学会」の運営

「人間科学学術院人間科学会」を運営し、学術的活動とともに社会的活動やネットワーク形成に利用していく。

②学内外連携委員会の設置

学術院の学内外との連携活動を取りまとめ、また学内外との連携の推進の方向性を議論する学内外連携委員会を設置した。

5. 人間科学学術院の将来の方向性の検討

第二次将来構想委員会の設置

人間科学学術院（人間科学部（通学制・通信制）、人間科学研究科、人間総合研究センター）の将来の課題や目標について様々な角度から検討を加え、今後の方向性を考えるために、第二次将来構想委員会を設置した。